

青梅市社会教育委員会議 6 月定例会会議録

令和 2 年 6 月 2 日
2 0 4 会 議 室
出席者 委員 1 0 名
(欠席者 委員 0 名)
事務局 3 名

～定例会開会前、委嘱状交付式を実施～

1 開 会

【議 長】今年度は東京都市町村社会教育連絡協議会の会長市であり、会長を任命された。来年の東京大会またそれに向けての今秋の関東大会のための準備を進めたいところではあるが、進められておらず、不安に思っている。皆さんに協力していただきたい。

【課 長】この 4 月に異動してきた。できるだけ早く慣れて、みなさんと同じように頑張っていきたいと思う。

3 報告事項

(1) 青梅市社会教育委員令和 2 年 5 月協議事項について

ア 役員を選出について

全会一致で、議長は宮野委員、副議長は金子委員に決定。

イ 青梅市社会教育委員会議 3 月定例会会議録（案）について

全会一致で、承認。

ウ 令和 2 年度全国社会教育委員連合表彰候補者の推薦について

全会一致で、青梅市としては金子委員を推薦することに決定。

【事務局】事務局から概要説明。これらは、5 月に書面で協議を行った。ウについては、青梅市としては金子委員を推薦するが、東京都市町村社会教育連絡協議会から 1 名推薦するにあたっては、他市町でさらに任期が長い方がいるので、他の方になる可能性が高い。

～質疑なし～

(2) その他

特になし

4 協議事項

(1) 令和2年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について (協議資料1)

【事務局】事務局から概要説明。12月社会教育委員研修会の講師を7月中旬に行う理事会で示す必要があるため、決めなくてはならない。また、一般市民等へ公開するかどうかにも検討する必要がある。昨年・一昨年は、一般市民の方が来ても楽しめるような講師を呼んでいた。しかし、事前に議長とも相談したが、このような新型コロナウイルスの状況で、不特定多数の方を呼ぶのは難しく、会場の規模としても難しい。社会教育委員向けの講師候補者を選ぶということで進めてはどうか、と考えている。

【議長】会長市として青梅市で交流大会を開くことに関して、皆さんの御意見を伺いたい。会場となるネッツたまぐーセンターの多目的ホールは、ソーシャルディスタンスを考慮してどれくらいの人数が参加可能となるか。

【事務局】現在、定員の2分の1の座席数でということで施設のガイドラインを作成予定である。東京都も施設の2分の1程度とうたっているところもあり、それに準じる予定。

【議長】社会教育委員だけでも各市町4～5人という換算になる。

【事務局】この件についても、7月の役員会・理事会で各市町に諮る予定である。

【議長】社会教育委員のみ参加という方向で、一般の方の参加はなしとした方がいいか。

～異議なし～

【議長】講師について、事務局と事前に考えた候補者が一覧のとおりだが、テーマからいろいろ考えると、一覧にある候補者からではなく、昨年度、文部大臣表彰を受けた「NPO法人青梅こども未来」代表の横手委員は適役だと思うが、いかがか。地域活動の中から社会教育の芽を育てるというような意味で推薦したい。身近な内容を、社会教育委員の方に伝えてもらうのが良いと思う。

【委員】大賛成。事務局が挙げた者はオーソドックス。地域に密着の、動きの見える、持続可能な活動をどのように我々がもう一度理解するか、ということが大切である。ぜひ講師としてやっていただいて、社会教育の東京の流れを青梅から発信していくのが良いと思う。

【事務局】NPO法人青梅こども未来は、家庭教育支援チームとして活動されており、国から家庭教育として顕著な活動をしているということで表彰された。横手委員は、その代表理事であり、また、地域の活動としては、小曾木地域で活動されている。

【議長】素晴らしい活動実績を、多くの社会教育委員の方にも伝えられるというのは非常に意義があることと思う。

～横手委員以外の委員から賛成・ぜひ講演を聴きたいという発言あり～

【議長】横手委員としてはどうか。

【委員】講師という柄ではない。やってきたことを伝えることくらいしかできない。過去の交流大会の実績を見ると、パネルディスカッション形式でやっ

ている年もある。自分はいつも、周りにいい仲間がおり、教えてもらいながらやってきた。パネルディスカッションのような形式で、地域で活動している仲間と一緒にやっていくなら可能かと考える。自分はコーディネーターのような立場になって、刺激を受けてきた皆さんにパネリストとして出ていただくということでもいいか。

【議長】パネルディスカッション形式というのは、事務局として問題があるか。

【事務局】問題ない。市町ごとに形式はいろいろ異なる。社会教育委員の方に参加していただいて、良い会だったと思っていただければ良い。ただし、講師報償金は上限が決まっており、1人あたりではなく、総額で7万円となる。

【委員】事例研究など、自分がやっている活動を、どういうふうに共有していくか。横手委員が最初に口火を切って話をし、前段をやって、こういうことも連携でやっているということをゲストスピーカーのような形で2・3人に話してもらい、最終的に引き継いで「自分たちはこうやっている」という形にまとめれば、身近な事例研究のような形になると思う。1人で講演をするのが一番良いかもしれないが、リレートークのような形でやっていくのも問題ない。全国でも似たような形で行っている事例はある。青梅らしい、青梅カラーを出すのが良いと思う。自然体で、自分がやっていることを発表すれば良い。

【議長】映像を入れたり、リレートークをしてまとめれば良いと思う。

【委員】そのような形でよければ、事務局や皆さんと相談しながらやっていけると思う。

～横手委員を講師とすることで決定～

(2) 次回定例会について

【事務局】次回は7月21日（火）とし、場所は別途また調整したい。

～異議なし～

(3) その他

【事務局】来年度、東京大会がある。初日が基調講演等で、翌日が5つの分科会を行う。各ブロックで分科会を一つずつ持つ。青梅市が第1ブロックの幹事市であり、青梅市が分科会1つを担っていくことになる。11月の新潟大会までにチラシを作る必要がある。青梅市がどんなことをやるか示さなければならず、8月くらいまでには各市町とも調整して決定していかなくてはいけない。過去5年の分科会の変遷をお配りしてある。事例発表を聞く分科会が2つ、ワークショップを中心とした分科会が3つという流れがある。7月定例会に向けて、どんなことをやったら良いか等、考えるための参考資料としていただきたい。

【議長】第1ブロックがこれまで行ってきた研修をまとめたものはあるか。

【事務局】後日、まとめたものを皆さんにメールで送る。

【議長】青梅としては、地域づくり・人材育成などのワークショップをおこなえると良いのかもしれない。青梅青年会議所は何か社会教育と連携を行ってきたこともあるのか。

【委員】青梅青年会議所では、子育てなどの連携はないが、青少年とはある。

【議長】学校教育との連携ということで藤原委員に御協力をいただくのも良いかもしれない。7月の定例会で案をもらいたい。

5 その他

【事務局】配布物は、『生涯学習だより4月号』、青少年委員の『みらい第62号』、『令和元年度青梅市国際理解講座「世界に広がる教室」活動報告書』、『よつばの手紙 No. 22』、『青梅市青少年健全育成基本方針』のチラシである。

【議長】委員の皆さんから何かあるか。

【委員】放課後子ども教室の件で、学校にもいろいろ聞かれている。学校でも温度差はあるのは仕方ないと思うが、ガイドラインまでいかないにしても、注意事項をまとめたようなものを出していただけるとありがたい。

【事務局】放課後子ども教室については、状況をどうとらえているか、学校にも聴取しているところである。6月5日に、コーディネーター会議を行う。スタッフも年齢層もまちまちであり、スタッフ側の意見も聞きつつ、コーディネーター会議で決めていきたい。学校側の意見を聞くと、2学期からが濃厚だが、学校によりまちまち。暑い時期であり、体育館で行うのも難しく、学校に別の部屋を使わせていただけないか調整中。ガイドラインを含め検討としていきたい。

【議長】新型コロナウイルスも収まったわけではない。工夫をしながら行っていただきたい。

【委員】今年の9月24日・25日に行う予定だった福島県の社会教育研究大会は、来年に持ち越しとなった。10月29日・30日に秋田県で行う予定だった東北6県の研究集会は、今年中止で、来年は山形で行うこととなった。11月11日・12日・13日に新潟で行う全社連の全国大会は検討中。

【事務局】新潟県は行う予定で進めている旨の通知が届いている。

【委員】準備が進んでおり、寄付ももらってあるので、中止も難しい。先は読めない。

【議長】4月に東京都に会って引継ぎと東京大会への協力をお願いをする予定だったが行けていない。東京大会に向けての寄付も要請したいが、現状、寄付が集められるかどうか不安。金銭面で、東京大会も行えるか不安を感じる。各市町で8万円くらいは集める必要がある状態である。東京都に協力してもらう予定でもあったが、行えていない現状である。いろいろ心配があるが、頑張りたい。

次回定例会

7月21日（火）午後7時～